

『参照基準』ってなんだ！

『大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準 社会学分野』の活用をめぐって

報告者	笹谷春美
	関西大学 高瀬武典
討論者	金沢大学 眞鍋知子
	北海道教育大学 角 一典
	横浜国立大学 江原由美子
司会	立教大学 松本 康

平成 26 (2014) 年 9 月 25 日、日本学術会議「大学教育の分野別質保証委員会」にて、社会学委員会社会学分野の参照基準検討分科会報告「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準 社会学分野」が承認された。この「参照基準」の策定にあたって日本学術会議は、本学会に協力を求め、2013 年度～2015 年度社会学教育委員会がその任務を負った。

その間に中央教育審議会答申（平成 24 年「大学教育の質的転換に向けて」及び平成 25 年「第二期教育振興基本計画について」）では、大学における改革サイクルと結びつけて「参照基準」の活用を促す旨の記述が見られるようになった。今後、大学の自己点検評価や認証評価において、「参照基準」が活用される局面も予想される。

その一方で、「参照基準」の策定にあたって本学会が協力したにもかかわらず、会員の間では「参照基準」が必ずしも共有されているとは言えない状況にある。そこで、本部会では、会員の間で「参照基準」及びその策定の経緯と位置づけについて共有し、今後のメンテナンスに対応できるように議論を継続させていくこととしたい。

(1) 『参照基準 社会学分野』の策定過程と概要（笹谷春美）

『参照基準 社会学分野』（2014 年 9 月 25 日 日本学術会議承認）は、前期の社会学教育委員会と日本学術会議社会学委員会との協働により策定された。文科省および日本学術会議からの依頼という外圧的要因もあるが、検討分科会に参集した、性や年齢、社会学教育や研究環境の異なる多様な委員たちの、社会学の存在証明を明らかにし、学生たちに魅力的で有用な教育を実践したい、という切実な内在的要求から作成されたものである。その意味で、21 世紀の現段階における社会学・社会学教育についての最大公約数的な公共知であるとともに、社会学教育に携わる会員にとっての共有知として活用を願うものである。本報告では、その策定過程と概要について述べ、豊かな議論の展開の一助としたい。

(2) 『参照基準 社会学分野』をめぐる論点整理（高瀬武典）

本報告では社会学の教育組織と研究集団の組織アイデンティティの形成に及ぼす機能・意味の観点から、「参照基準」をめぐる諸議論の整理を行なう。「参照基準」における社会学の定義には 400 字近くが費やされ、社会学者たちの定義の共通項を抽出する作業がいかに困難であるかを示している。社会学者たちの共通項が定義自体ではなく、「社会学の定義は社会学者の数ほどある」という認識の中にあるという逆説への考察を手懸りにして、とくに社会学教育における「参照基準」の永続的検討が必要な理由を述べる。